

宝木だより

第22号

発行 宝木地区まちづくり協議会

(宝木地域コミュニティセンター内)

TEL・FAX 028-624-0531

宝木ぶらり 4

たかお
高麗神社



高麗神社

は、環状線から大谷街道を西方に進み中丸公園の、道路を隔てた西隣、県営駒生団地の南に接して鎮座している。

大谷街道からの入り口には石造りの鳥居が建っており100メートルほど奥まったところにもう一基建っています。以前はこの周辺は大きな杉林でいわゆる鎮守の森を形成していたが、近在の住民の要望で全て伐採され切り株がみられる。本殿の手前には子どもが抱え込んで足元に抱え込んで珍らしい狛犬がみられる。

神社庁誌の由緒沿革によると「当社の御祭神は、雨を主宰し五穀豊穡を祈る神である。農民にとって最も大切な神で、干天の続くときは雨を祈り、霖雨の時は晴れを、その神霊を貴船神社により勧進奉斎したものであろう」とあり、旧暦9月29日には祭りを盛大に行っていたようです。

言い伝えによると、建武年間宇都宮公綱公が宇都宮城と多気山城を往復する際に、当社の巨木茂る中で休息したそうである。

昭和40年代頃までは、秋祭りに近在の農民が参拜者に甘酒を振るまい、出店も多く大変賑わいを見せていたそう

である。

その後祭りが一時衰退したが、氏子・自治会等の連携により11月3日を感謝祭と名打って祭りを復活させ、賑わいを戻しました。

注 貴船神社

京都を流れる鴨川の水源地に鎮座し、水の供給をつかさどる神様を祭る神社である。水源を守る神として皇室からも格別の崇敬を受け、日照りや長雨が続いたときは雨乞いと雨止めの神事が行われている。

市民サッカー大会 宝木チーム優勝

10月30日開催の市民スポーツ大会のサッカーにおいて、宝木サッカークラブ（代表 伊佐野利明）が優勝しました。各地区から16チームが出場し、トーナメント方式で勝ち進み、決勝は国本チームと対戦しましたが、4対0で快勝しました。



宝木まつり

3年ぶりに開催

11月13日地区最大のイベント宝木まつりが賑やかに楽しくおこなわれました。

昨年、一昨年と台風などにより中止を余儀なくされましたが、今年は打って変わって小春日和の日曜日ということで、多くの方が訪れ地域の交流ができたと思います。



中学生が

まつりを支援

陽西、宝木両中学校の生徒の皆さんには、前日の祭りの準備、そして当日と2日間にわたり延べ56名の支援を頂きました。

また、陽西中学生徒によるよさこい音頭は、まさに祭りを盛り上げてくれました。



地区体育祭

宝木町2の2連覇

10月9日(日)宝木小学校において第43回体育祭が行われました。2年ぶりに開催。予報通り開会する頃には雨もやんで、晴天に恵まれ体育祭日和となりました。子供たちから高齢者まで世代を超えた各競技に清々しい汗を流していました。

優勝 宝木町2の2自治会
準優勝 宝木地区細谷自治会
3位 宝木町2の1自治会



まちづくり

輪投げ大会

高齢者の方々に第二の人生を楽しく暮らして頂くこと、自治会と話し合いすべての自治会に輪投げ用具を購入していただき、これを推奨することにしました。これを根付いたものにするため、地区まちづくり協議会と社会福祉協議会は10月9日宝木小学校体育館において自治会対抗の輪投げ大会を開催しました。結果は次の通りですが、競技中は大きな歓声や拍手がたびたび見られ、参加者は楽しいひと時をすごしました。



この大会は順位を競うのが目的ではありませんので、来年度からは春・秋の二回程度開き高齢者の交流をより深めていきたいと思います。

優勝 宝木町1の1自治会
準優勝 宝木団地自治会
3位 宝木町2の3自治会



災害に備える

地区防災訓練



9月4日(日)宝木地区防災訓練が宝木小学校において実施されました。訓練には地区内11自治会と協力団体など約300名が参加しました。震度6の地震が発生したことを想定し「自分の身を守る」訓練に始まり避難者数の把握と誘導訓練、宝木分署署員による救急救命・救助訓練、消火訓練、資機材の活用や炊き出しなど行いました。特に今年は大雨による災害が全国的に起きただけに、土のうの作り方についても、多くの参加者が自らスコップをもって熱心に訓練をしていました。



敬老会の開催



9月18日とちぎ健康の森において平成28年度宝木地区敬老会を開催しました。本年度から、自治会に加入している方1560名の方を招待しました。

アトラクションは、宝木コミセンにおいてサークル活動をしている方によるフラダンスとコーラスの熱演があり、特にコーラスでは、馴染みの「茶摘み、村祭り、おぼろ月夜」などの唱歌、そして戦後の青春時代を思い起こせる「青い山脈」さらには、坂本九さん(日航事故で亡くなられた)が唄った「幸せなら手たたこつ」を会場の皆さんとともに合唱し、楽しいひと時を過ごされました。



の青春時代を思い起こせる「青い山脈」さらには、坂本九さん(日航事故で亡くなられた)が唄った「幸せなら手たたこつ」を会場の皆さんとともに合唱し、楽しいひと時を過ごされました。

アンケート項目		家数	パーセント
回答者	独居世帯	126	78.3
	老々世帯	35	21.7
住宅環境	戸建住宅	142	88.2
	住宅集合	19	11.8
設置状況	設置有り	118	73.3
	無し	43	26.7
設置なしの方に質問			
今後設置したい		12	27.9
今後も予定なし		31	72.1

近年全国的に住宅火災による死者が急増しています。特に犠牲者の方の大半が65歳をこえる高齢者で、就寝中に火災が発生し、気付かないことで逃げ遅れ、犠牲になるケースが増加しています。そのため、「就寝に使用する部屋」に、火災警報器の設置が義務付けられました。

このため、地区民児協と婦人防火クラブは、高齢者を火災から守ろうと、高齢者世帯を訪問し、火災警報器の設置状況のアンケート調査を行いました。

それによると、アンケートにお応え頂いたのは161名で、そのうち一人暮らしの方は126名です。うち35名の方は設置していませんでした。

火災で高齢者が亡くなる事例は多く、今後、設置されていない方等にアドバイスをしていきたいとのこと。

火災警報器を

備えていますか



自治会連合会 50周年記念式典

宇都宮市自治会連合会は、昭和41年に結成され、住民生活の身近な団体として安心安全で豊かに暮らすまちづくりをめざして諸活動をし、本年50周年を迎えました。

これを記念し、10月27日県総合文化センターにおいて式典を開催しましたが、市自治会連合会は、39地区自治連787自治会により組織されておりあります。この日は福田富一県知事、佐藤栄一宇都宮市長等多くの来賓を迎えて盛大に行われました。



2自治会に市長表彰

宝木地区細谷自治会（会長 大金勇夫）
宝木団地自治会（会長 原田繁男）

10月27日の市自治連50周年記念式典において表彰されました。

2自治会は、共に毎月の役員定例会の開催による情報共有化を図り、住民の安全・安心な生活を願って諸活動を進めていることが認められました。特に細谷自治会では、毎月地域広報紙「細谷だよ

り」（左写真上）を発行し、宝木団地自治会では団地内の清掃（左写真下）を計画的に進め、きれいな住環境の整備に努めていることが特筆されます。



高齢者の自転車教室

地区交通安全推進協議会と老人クラブ連合会は、高齢者を対象に自転車の安全な乗り方教室を実施しました。

中央警察署の交通担当者からの、自転車の点検、自転車事故につながる右左折の方法などについて実際に自転車をを使用して受講しました。警察官から特に右左折時の合図の励行と、自分の目の安全確認を強調され受講者から「大変勉強になり、安全な乗り方を励行します」との声も聞かれました。



初の自治会役員研修

6月11日新年度に地区内で半数の自治会長が交代したことを機に、自治会執行部役員を対象に研修会を行いました。講師は、鶴田自治会長で明保地区自治連会長でもある島田弘二氏を招き受講しました。

- 自治会活動の情報の共有化
- 慣例にとらわれない新たな事業の発掘
- 地域活動リーダー・役員の育成



宝木地域の歩みを知ろう

まちづくり講座

7月31日下野民俗研究会員井上俊邦氏を招き、地域の方を募集し講座を開きました。宝木地区には「宝木用水」など先人たちが育んできた様々な多くの足跡があります。その歩みを学びました。



あとがき

宝木の歴史を知ろうと講座を開きました。本紙も発刊当初これを取り上げ、また、昨年「宝木めぐり」を掲載しています。これを継続するため、皆様からの資料の提供等をお待ちしております。（お）